

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年7月2日発行 No.75

『家の中に入り、人々に言われた。「なぜ、泣き騒ぐのか。子供は死んだのではない。眠っているのだ。」人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスは皆を外に出し、子供の両親と三人の弟子だけを連れて、子供のいる所へ入って行かれた。そして、子供の手を取って、「タリタ、クム」と言われた。これは、「少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」という意味である。』（マルコによる福音書 第5章38～41節）

<トワイライトベルズの歌声にうっとり…。恒例のKIUチャリティコンサートを開催!!>

先週土曜の午後、チャペルは美しい歌声に包まれました。関西を中心に様々な音楽シーンでご活躍されているヴォーカルアンサンブル「トワイライトベルズ」の皆様をお招きし、今年で25年目（KIUのちょうど半分!!）を迎える「Chapel Charity Concert」を行いました。チャリティーと銘打っている通り、この日は入場無料でしたが参加者からの献金がアフリカの難病ブルーリ潰瘍の子供たちをサポートするための基金として捧げられます。このプロジェクト発足時の関係者でもあった下村学長からは、取り組みへの理解に合わせて本学の50周年プロジェクトについても強いアピールがありました。この日は約400年前の世俗歌曲から、馴染み深い童謡・歌謡曲まで幅広い曲目が演奏され、聴衆の耳と心を癒されました。6月も最後を迎えたこの日（巷では1年のちょうど真ん中なのでハーフタイムデーと呼ぶそうですが…）、チャペルに響く歌声を聴きながら、これまでの歩みを振り返り、また2018年後半に向けての歩みを始めていく…。そんな有意義な一時を過ごす事ができました!! 感謝です!! 12月にも記念コンサートを予定しています。今度は有意義であった一年を振り返り…と行きたいですね!!



休日でも多くの参加者が集いました 下村学長も50周年を強くアピール チャペルに響く癒しの歌声

<キリスト教センターに新しい楽器が登場!! これで音楽シーンの更なる充実が必至!?!>

先日、キリスト教センターに大きな荷物が届けられました。プチプチに包まれたその中身は…?ズバリ!! 奏楽用のキーボードです!! キリスト教センターは、それこそ入学から卒業まで様々な行事をサポートしていますが、そこでは同時に多種多様な演奏が求められます。それに対応する為、今回は礼拝奏楽に特化したものを一台購入しました!! 試演された伊藤先生も、鍵盤の柔らかさや弾きやすさを高く評価されていました。記念すべき50周年事業もこれでバッチリ!! ですね(^o^)b



伊藤先生のファーストタッチ!! 感触はgood!!

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

6月25日（月）テーマ：「美しい海に響く平和への祈り」 野間 光顕（チャプレン）

我が家の長男は沖縄の中学校で寮生活を送っている。沖縄の海や文化が大好きになった長男から先日こんな問いが投げかけられた。「社会の時間に沖縄の歴史を学んでいるが、どうして沖縄は、こんなにいじめられなければいけないのか…？」答えに窮する自分を感じつつ、TVをつけると6月23日に沖縄で行われた全戦没者追悼式典、そこで浦添市立港川中学3年の相良倫子さんが「生きる」という詩を朗読されている姿に圧倒された。息子とそう年齢の変わらない女の子が語ってくれた決意を前に、大人が担うべき責任を今一度深く考えさせられている。

6月26日（火） ※この日は今年度初の音楽礼拝!! オルガニストの伊藤純子先生の演奏に耳と心を傾けました。KIUの宝であるパイプオルガンの響き、ぜひ皆さんもご鑑賞ください!! 次回は7月24日（火）です!!

6月27日（水）テーマ：「アフロヘアー」 平田 憲司郎（経済学部）

私は髪型をアフロにしてからもう3、4年になる。この髪型にしてから、色々と質問される事が多いが、特に理由はない。ドレッドとは違って特別な制約も手入れも必要ない。この髪形を許してくれる職場の寛大さには大変感謝している（オープンキャンパスや入試の面接、面談時などは意識をして髪を整える事でけじめをつけている）。仕事で海外出張に行くと、周りの人の反応が面白い。就職のセミナーなどでは「第一印象を大切に」と言われ、見た目を意識する人も多いだろう。しかし見た目だけではなく、中身もしっかり見抜けるような目を養いたい。

6月28日（木）テーマ：「日本の人口と高齢者」 小枝 英輝（リハビリテーション学部）

日本の人口は2010年の1億2860万人をピークに減少している。ここから提唱されているのがいわゆる「高齢化社会」問題だ。全国市町村の高齢化率は軒並み上昇しているし、それに伴う高齢者の疾患、死亡事故、認知症や徘徊、行方不明者の問題に加えて、少子化の課題がそれらに今後大きく影響してくることが予想されている。本学のリハビリテーション学部では毎年1年生対象として認知症サポーター講習（基礎的な認知症の理解と対応を学ぶ）を行っている。この世界的な課題に向けて、身近な課題から理解を深め、対応策を模索して行きたい。

6月29日（金）テーマ：「マネージャーの活動を通して学んだ事」 川内 智賀（経済学部3年）

大学に入学した私は、野球部の友人からマネージャーに誘われた。軽い考えで見学に行きマネージャーになる事を決めた為、その役割の重要さをあまり理解していなかった。ミスも多く最初は「辞めたい」といつも思っていた。しかしチームに支えられ、辞めずに3年間やってこれた。この3年で、マネージャーとしての責任感が強くなり、今では野球部の活動に充実感と誇りを持つ事ができている。野球部が1部に上がるように、部員たちが気持ち良く練習や試合に臨めるようにするため、選手の表情や雰囲気を確認し、細かい配慮をしていきたい。「どうすればチームの為になるか？」を考えながら行動すると楽しさが増す。こんな気持ちは、今までの人生で経験できなかったと思う。今はマネージャーとしての活動に深く感謝している。KIUの建学の精神は「仕える」事だ。半世紀以上前に、八代斌助先生が学生に伝えたかった想いとは、このような充実感なのかな…?とも思う。この経験を、大学の中だけでなく卒業後も、自分の生き方の指針として活かしていきたいと思っている。

（文責：野間 光顕）

